

オススメ本案内コーナー ～建築系リハエンジニア編～

西村 顕

横浜市総合リハビリテーションセンター・一級建築士

①誰のためのデザイン？

増補・改訂版—認知科学者のデザイン原論

D. A. ノーマン (著)、岡本明、他 (翻訳)

新曜社、2015年、3,630円



ボタンがあれば押したくなり、太鼓があれば叩きたくなる。このようにモノと無意識状態の人間の行動との関係性を示す「アフォーダンス理論」をデザインで解釈した認知科学者のD.A. ノーマン。本書の増補・改訂版では、新たに過去の手掛かり等がデザインに影響を及ぼす「シグニファイア」という概念を提唱しています。概念を理解するのは少し難解ですが、具体例を見ると「なるほどこういうことか!」と分かったような気がします。アフォーダンス理論は私の仕事や考え方の大きな軸になっています。ユーザー視点の福祉機器開発や住環境整備に携わる方には必読書でしょう。

②仕掛学 人を動かすアイデアのつくり方

松村 真宏、東洋経済新報社、2016年、1,650円



エスカレーターの左側に足跡マークを描くと、左側に立てばよいことが自然と伝わり、人の流れが整理される。ゴミ箱の上にバスケットゴールをつければゴミを入れ

たくなり、遊んでいるうちに部屋がきれいになる等。人工知能の研究者である著者が提唱した仕掛学とは「人間の心理を読み、自然に行動を促し、問題を解決するための学問」とのこと。アフォーダンスの概念を組み込みつつ、人間の行動の習性を利用して仕掛けたまちづくりや社会環境の事例が豊富な本書は、すぐにでも真似したくなるアイデアが満載です。

③知的障害・発達障害のある子どもの住まいの工夫ガイドブック 危ない! 困った! を安全・安心に

西村顕、本田秀夫、中央法規出版、2016年、2,640円



1970年代より米ノースカロライナ州から実施された自閉症支援のプログラムの中に「構造化」という手法があります。構造化とは、学習や生活場面において環境設定やスケジュールの提示などによって、何をすべきかをわかりやすく提示する方法のこと。この構造化を踏襲しながら安全対策を重視し、建築工学的な要素を取り入れて知的障害や発達障害のある方の住まいの改善例をまとめたものが本書になります。300点以上の事例写真やイラストが掲載されており、見るだけで理解できるように仕上げられています。

【本誌編集委員会よりご案内】

本コーナーは、当協会会員の皆さまに向けて書籍等を紹介するページとして企画しました。いかがだったでしょうか。次号より本コーナー内に、会員の皆さまからのご意見、ご感想を掲載する予定です。2021年7月末までにメール(journal@resja.or.jp)にてご意見等をお寄せください。お待ちしております。

横浜市総合リハビリテーションセンター
E-mail: nishimura.a@yokohama-rf.jp